

第18回コムズフェスティバル オープニングイベントとして、  
平成29年1月28日（土）10：00から、5階大会議室で  
「コムズ仕事塾スペシャル 松浦弥太郎さん講演会」を開催しました。

## 「暮らしの手帖」から学んだ大切なこと

講師：松浦 弥太郎 さん  
「暮らしのきほん」編集長・エッセイスト



「とと姉ちゃん」のモデル大橋 鎮子さんに請われて「暮らしの手帖」編集長に。  
約9年間の「暮らしの手帖」での仕事を通して得られたもの、大橋 鎮子さんとの思い出や  
今も守っている約束など、ユーモアを交えて語られました。

また、ご自身が大切にされている価値観や生き方、仕事にかける想いなども語って  
いただきました。

「仕事」とは、困っている人を助けること

「お金を使う」のは、自分を助けるものを手に入れるため

「文章」は、頭を使わず、心を使って書く

仕事を通して人生を切り拓くためのヒントが満載の2時間でした。



後半、松浦弥太郎さんと鎌田館長の  
トークの時間がありました。

松浦さんの最新作「自分らしさはい  
らない」を巡って、「自分らしさ」に  
ついてトークが弾みました。

松浦さんによれば「自分らしさとは、  
日々、更新されていくもの」

「自分らしさを捨てることで、自分  
らしさが広がる」

ということでした。

## 参加者の声

- 子どもと関わる仕事について1年。うまくこなすことばかり考えていて、心を使っていたかと考えさせられた (20代女性)
- 上手に人と付き合うことを大切にしてきたものの、どこかでよく思われたいという気持ちが足枷になり、人に気持ちを伝えることができなくなっていた (30代女性)
- 「仕事」と「人」を大切にしていなかったのが心が痛かった (40代女性)
- 普段から思っていたが自分の中で整理できていなかった、仕事・お金・文章について目からウロコの思いだった (40代男性)
- 人との巡り合いは、宝物だと実感した (50代女性)
- 何歳になっても今を大切に生きたい (60代女性)

講演会当日は、創刊号から最近号まで94冊の「暮らしの手帖」を展示しました。多くの市民の方が、懐かしい想いで、手に取ってご覧になっていました。(現在は2階図書コーナーに展示しています)



「暮らしの手帖」第4号で紹介された「直線裁ち」のワンピースも展示。現代でも通用するデザインです。



講演には300名(女性:250名・男性:50名)の市民の方が参加されました。アンケートでは、「大変よかった」と回答された方が大多数でした。